森のひみつみつけ隊新聞

鹿追町立通明小学校
4年
土屋来晴
飯塚力希
石澤愛和
佐藤瑞穂
2019年11月22日発行

フキを食べたのは？

はんにんをさがせ！

わたしたちは、六月十二日に、鹿追自然ランドに行きました。動物、植物など、たくさん見てまわりましたが、わたしは特に大きなフキに注目しました。なぜかと言うと、フキは、身のまわりのいろいろなところに生えていて、とても身近な植物だからです。人間もよくりょう理して食べますが、どうやら森の生き物たちもフキを食べているそうです。

わたしは、六月十二日にしか追自然ランドに行きました。なぜなら、しか追の自然について勉強するためです。ネイチャーセンターのガイドさんのマッツがいろいろと教えてくださりました。

森を探検していると、はじめに大きなフキを見つけました。フキは一つだけで生えず、何本かが群れになって生えています。

私たちは、よくふきを食べていますが、森の動物もよく食べます。その中でも一番食べるのは、クマとシカです。

クマはフキを見つけるとガジッとおさえ、かみちぎりながら食べるので、食べ終わるとフキのすじが残り、食べた後のくきや、葉などがボソボソとしています。

一方シカは、フキを見つけるとクキだけをむしゃむしゃと食べるので食べ終わると葉だけを残します。シカの歯はクマとちがってかみちぎれる歯があるので、くきの切り口は全部そろって、とてもきれいに食べられています。

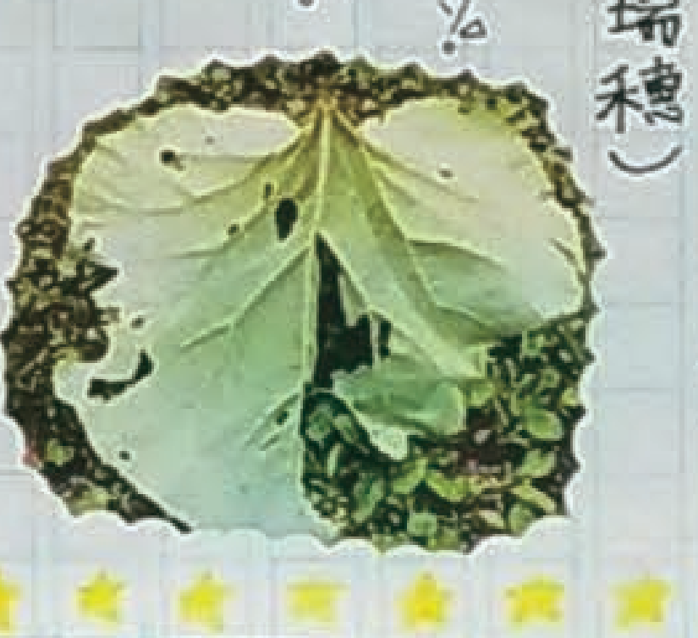
もしも森の中で、フキの周りに食べた後があったら食べ方がちがうのでよく観察してみてください。フキの食べ方のちがいで動物を見分けることができます。

私はこの探検で、シカとクマのフキの食べ方がいっしょだと思っていたけれど、ちがうことがわかりました。

今度はシカやクマ以外にもフキを食べる動物がいるのか、それから、食べた後にどんなちがいがあるかも調べてみたいと思いました。

みなさんもしか追自然ランドに行ったら、フキやフキの近くなどを見てみてください。（瑞穂）

これはクマが食べた後。ボソボソ。



これはシカが食べた後。フキのだんめんがキレイだね。

ふしぎなねずみ発見!?

しかおい自然ランドには、いろいろな種類のねずみがいます。その中でめずらしいねずみについて教えてもらいました。その名も『トガリねずみ』です。

トガリねずみは、土の中にいてもぐることができるので、よくもぐらにまちがえられます。ねずみなのにもぐらだなんてちょっとかわいそうだなと思いました。

大きさは、もぐらと同じぐらいで、北海道だけにしか住んでいません。なのに東京トガリねずみと言うなんてとてもふしぎです。ちなみに、北海道にはもぐらは、住んでいないので北海道に住んでいる人でもぐらを見つけたという人は、多分トガリねずみだと思います。

冬の森の中、からまつの木の根もとの皮がない物を見つけることがあります。木の皮をはがしたはんにんは、トガリねずみです。

トガリねずみは、寒い冬をこすために皮をはがして温かい巣を作ります。だから北海道の森のからまつを調べて木の皮がはがれている時は、近くにトガリねずみの巣があるということです。

トガリねずみは、土の表面近くを歩き回っています。だから通った所がもり上がって通り道がすぐ分かります。森の中では、植物や動物ばかり見てしまいますが地面にも注目すると、もっとおもしろいかもしれません。みなさんもトガリねずみに出会えるかもしれませんよ。（力希）

チクチクイラクサのひみつ

みなさんはイラクサをさわってみたことがありますか。

イラクサは、北海道の森の中によく生えていて、山菜としてわたしたち人間も食べることができます。葉はギザギザしていて、よく見ると葉にもくきにも、小さなトゲがあります。そしてそのとげにさわると少しチクとしていたみがあります。ですが、ガイドさんは、「えいようがあって天ぷらやおひたしにするとおいしいよ。」と言っていました。

イラクサは、たんぽぽ、くさのおなどと同じで、くきをおると白いどくのえきがでてきます。なぜイラクサはどくをだすのでしょうか。なぜなら、いろいろな動物に食べられないようにどくを出します。動物は、かんだときにどくがでてチクッとしていたいので、食べるのをやめてちがうくさを食べます。そして、イラクサはなかまをふやして、いきます。昔からイラクサは、えいようがたくさんあって、よく食べられているようですが、自分の身を守るためにどくを出すなんて草なのに不思議だなと思いました。

しか追自然ランドだけではなく他のいろいろな森にもイラクサはたくさん生えているはずなので、ぜひさがしてみて下さい。（来晴）

ちくちくするからきをつけて！

しっぽに注目

みなさんは、シマリスとエゾリスのしっぽを見たことがありますか。

私たちは森を探検していくと、ラッキーなことに、シマリスに出会いました。北海道では、エゾリスはよく見ているけど、シマリスはあまりでてこないのでラッキーだなと思いました。

中でも、その日出会ったシマリスは少し、しっぽが青い小さめのリスでした。シマリスはとてもびんかんなので、ガイドさんに、「静かにしてね。」と言われました。みんなで静かに見ていると、ガイドさんが静かに、「あれは若いリスだよ。」と教えてくれました。なぜわかったかというと、ヒントはリスのしっぽにありました。若いリスは、しっぽが青っぽく見えるそうです。絵の具をつけたりするわけでもないのに、自然に青っぽくなるなんてすごく不思議だなと思いました。たしかによく見てみると先のほうが青っぽく見えました。

エゾリスのしっぽは、体と同じ毛の色でフサフサしていて大きな筆のようですが、シマリスはシマもようでした。同じリスでも、しっぽがこんなにちがうなんておもしろいなと思いました。（愛和）

木をかじったのは…

森を探検していると、左の写真のように、木の一部がはがれてしまっている場所がありました。ネイチャーセンターのまっつさんが、「この木をはがしたはんにんは、みんながよく知っている虫だよ。」と、教えてくれました。みなさんは何だと思いますか。

正かいは、スズメバチでした。スズメバチは、木のかわをかじりはがします。どうして木のかわをはがすのかは、森探検のプロ、まっつさんでもわからないなぞなのだそうです。

しかも、はがし方に特ちょうがあって、木の同じ面だけをかじっているのです。あちこちすきなようにというわけでなく、何かスズメバチにしかわからないひみつがかくれていそうです。

だれか、このなぞの答えを知っている人がいたら教えて下さい。（来晴、愛和）

これは、スズメバチがかじったあとだよ～

白～い葉っぱ!

森に行くと、たくさんの植物がありますが、今回は、その中のみやまたたびという植物についてしょうかいします。みやまたたびは、葉っぱが白くなっている物があります。なぜ実のなる近くに白い葉っぱがあるのでしょう。みやまたたびは、鳥たちに実を食べてもらいたくて鳥がすぐに実を見つけてくれるように葉を白くしているようです。

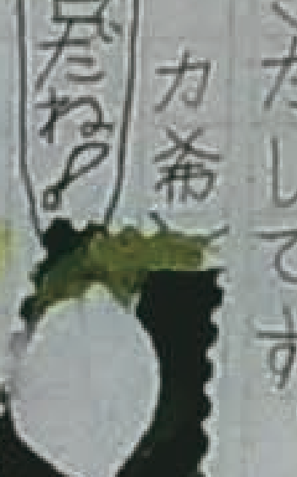
葉が白くなっているのは、病気ではありません。鳥に分かってもらえるように印をつけているのです。鳥は、空を飛ぶので上から実を見つけるのはむずかしいからなんだそうです。

みやまたたびは、とてもすごいくふうをしているんだなと思いました。ふつうの葉っぱは緑色なのに、みやまたたびの白い葉っぱを見て、とてもおどろきました。それにかしこいなと思って、とても感動しました。

鳥は、実を食べたら、いろいろな場所でふんといっしょに種を出し、そこから芽を出してどんどんふえていくのです。

自然ランドには、まだまだ不思議がありそうなので、また行きたいです。（飯塚　力希）

まっ白だね！



これは白くなっている葉っぱだよ！

編集後記

私たちは、森のことを調べに鹿追自然ランドに行ってきました。森を探検するといままでしらなかったところやきづかなかったところがたくさんわかりました。また、新しい発見をうみ出したいです。